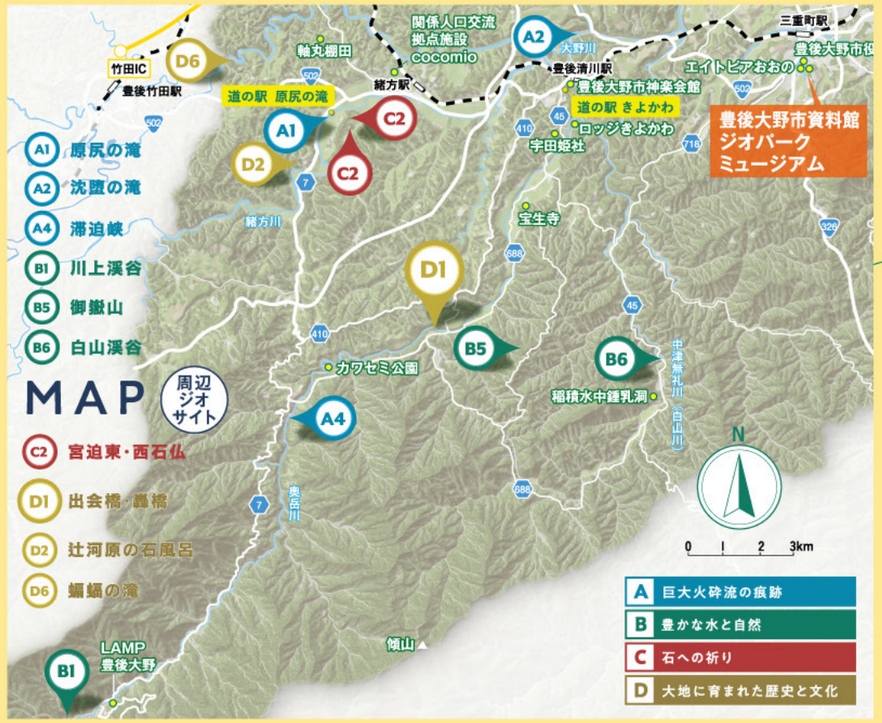


BUNGOONO GEOSITEFILE
豊後大野ジオサイトファイル

出会橋・轟橋

DEAI BRIDGE & TODORO BRIDGE / KIYOKAWA

おおいた豊後大野ジオパーク
Oita Bungoono Geopark





周辺情報

お土産買うなら!



道の駅 きよかわ

大分県豊後大野市清川町砂田1574-1
0974-35-2117 P88台
営7:30~18:00
特産のクリーンピーチや金ごまの加工品が揃う直売所のほか食事処など、多彩な店舗が軒を連ねる。

おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会 http://bungo-ohno.com
〒879-7198 大分県豊後大野市三重町市場1200番地 豊後大野市商工観光課内
TEL 0974-22-4089 FAX 0974-22-3361

おおいた豊後大野ジオパークガイド
TEL.080-2708-7809



豊後大野ジオサイトファイル

出会橋（であいばし）・轟橋（とどろばし）

出会橋は大正期の終わりごろ、轟橋は昭和初期に架けられた石橋です。巨大な石橋がすぐそばに並んでいるという一見奇妙（いっけんきみょう）な光景ですが、それぞれ建設された目的が違います。このような景観が見られるわけは、垂直に切り立った深い谷と、建設資材（けんせつしざい）となった岩石の存在にありますが、いずれも深く関係しているのが、約9万年前におこった阿蘇火山（あそかざん）の巨大噴火（きょだいふんか）です。実は、この二つの橋のアーチの長さは日本で第一位（轟橋）と第二位（出会橋）。自然の営みと人の営みが交差し誕生したジオサイトです。

石橋。それは自然の摂理と人の想いの結晶。

約９万年前におこった阿蘇火山の噴火による巨大火砕流は、阿蘇に近いここ豊後大野の地のほとんどを覆い尽くした後、冷え固まり「溶結凝灰岩」となりました。その冷える過程で入った縦方向のひびは、川によって削られることで、垂直に切り立ち、まるで大きな溝のような渓谷を作りました。この谷は川を渡りたい人々にとって困った存在でした。大正時代に豊肥線鉄道が延伸し、豊後大野に次々と駅が開業すると、駅までの道路網を整備する機運が高まり、溶結凝灰岩を用いたアーチ式石橋が架けられました。

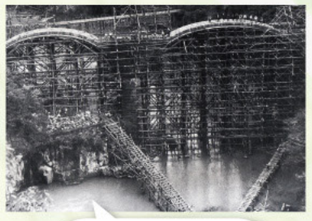
1 出会橋

大正 13年(1924)架橋。この橋の下を流れる、奥岳川の右岸にある轟地区と左岸にある平石地区を結ぶ、人道橋として建設されました。アーチ部分の径間は 29.3mで、隣にある轟橋についで、日本第 2位の長さになっています。石工には、当地の住人「界寿光」の名があります。橋長 32.2m、橋幅 3.9m。



2 轟橋

昭和 9年(1934)架橋。傾山のふもとの国有林から切り出した木材を駅まで運ぶ森林鉄道の橋として建設されました。鉄道が走るために橋は長く巨大になり、二連アーチの径間はそれぞれ 32.1m(右岸側)、26.2m(左岸側)、水面から橋ゲタまでの高さは 27m あります。出会橋も轟橋も使われた石はすべてこの地で採れる溶結凝灰岩。巨大噴火を起こした阿蘇火山と関係の深い石です。



建設中の轟橋、アーチを組む様子がよくわかる。

3 ボックスキャニオン

箱のような谷、ボックスキャニオンは、豊後大野ジオパークを代表する景観のひとつです。

昔の人々にとってこの谷を克服するのはたいへんな苦労でした。



4 しゃくし岩

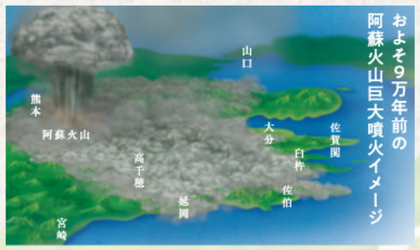
しゃくし岩では、きれいな柱状節理の部分をしゃくしの柄に、その上のエンタブラチャーと呼ばれる部分をしゃくしのすくう部分に見立て名づけられたようです。エンタブラチャーとは、本来なら縦に進む冷却方向が定まらなかった部分だと言われ、火砕流が厚くたまったために見られる現象だと考えられています。



阿蘇火砕流と柱状節理

阿蘇火山がおこした約9万年前の巨大噴火では、九州島をおおうような巨大火砕流が発生し、九州地方を中心に大きな影響を与えました。特に阿蘇火山の東側、竹田、豊後大野、臼杵では低い土地のほとんどが覆われ、そのまま冷えて固まった溶結凝灰岩が見られます。

火砕流とは、火山の噴火によって噴き上げられた火山ガス、溶岩や火山灰、岩などが崩れ落ち低いところへ向けてかけ下るもので、時速100kmを超えるスピードと、数百度とも言われる熱をおびていると言われています。火砕流は高熱のままとどまったため、自分自身の熱で再び溶け徐々に冷えていきました。その時、上下から冷えることで収縮し縦方向の亀裂がはしり、まるで柱を束ねたような姿となりました。これが柱状節理と呼ばれるものです。





阿蘇の巨大噴火と川がつくった渓谷



現在の奥岳川の流れは、約9万年前の阿蘇火山の噴火以前もやはり川であったと考えられています。

約9万年前、阿蘇火山が巨大噴火をおこし、火砕流が発生します。

火砕流は、低いところを目がけて流れてきます。特に川が流れていた部分では大量にたまりました。

火砕流はそのままとどまり、自身の熱で再び溶けた後、徐々に冷えていきます。

もともと低かった場所が火砕流に覆われたため、川は再び同じような場所を流れていきます。

川の流れは固い岩もげずっていきます。縦方向のひび割れにより、深い谷をつくります。

カメラポイント

表紙の写真はここから撮影したものです。

カメラポイント

車に注意

足元注意